

「すべてを美しくされる 神の時」

伝道者 3:1 ~ 11

神様のなさる事、これはまさに私たちの人生というキャンパスの上に美しい絵を描いておられ、それは私たちの人生だけでなく家族に、教会に、日本に、そして人類の歴史の中に描いてくださっています。では、その事を私たちはどう受け取っているのでしょうか。

1. すべてを時宜にかなって美しくされる神

「時にかなって美しい」という判断は誰がするのでしょうか？ また何時できるのでしょうか？
すべてを美しくされる主体は神です。そしてそれを美しいと受け止める責任が私たちにはあるのです。ですがそこにはとても大きなギャップがあり、そこを縮めていくのは私たちの信仰生活の大切な責任なのです。そのために私たちは教会に通い、賛美し、隣人と一緒に涙をもって祈ります。やがて教会というコミュニティに溶け込んでいく中で神様によってなされることは時にかなって美しいと少しずつ判断し、まるで神様が描いてくださった人生のキャンパスの絵の上をトレーシングペーパーでなぞっていくように生活していくのです。その絵をなぞりながら「そうです！神様！美しいです！」と判断し続けることが私たちの責任なのです。

2. 人に永遠の思いを与える神

「神のなさる事はすべて時にかなって美しい」のすべては伝道者の確信であり、使徒パウロの確信でした。このすべてはローマ書8:28にもあります。(神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益ととしてくださることを、私たちは知っています。)
私たちは神のなさることがすべて美しいと受け止めながらも時に「どうしてこうなるの？」と思うことがあります。足元を見て生活をしてしまうので世界を広く見る事ができません。視野が狭くなると神様の恵みを受け取る視野さえも狭くなってしまう恐れがあります。私たちは「今」に捕らわれず「やがて」への思いを持とうではありませんか。ここまで私たちを成長させてくださった神様です。私たちはもっと成長していきましょう。
「今に捕らわれない」とは信仰・希望・愛の根源(エネルギー)にもなるのです。
神はまた、人の心に永遠への思いを与えられました。それでは「永遠」とは何でしょう。「時間」と「永遠」を比べた時に、私たちは今を使って未来を食いつぶすような生き方をし、時間の奴隷になっています。イエス様はなぜ十字架に架かってあれほどの苦しみをなさったのでしょうか。私たちを時間の奴隷から解放しようとしてくださったのです。私たちは時間の奴隷としてこの地上で生きている間にその生き方をいかに整理していくのが今日の課題でもあるのです。そしてこの「永遠」には過去も未来もありません。永遠とは無限とは違います。また時間とも関係ありません。私たちがこれを完全に理解することはできません。イエス様が私たちに与えてくださったのは永遠への思いなのです。

「今」と「その時」

「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになります。

今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。(1コリ13:12)」
私たちは今の状態をその時から切り離して判断しようとすると、神のなさる「美しさ」が見えてきません。今の環境を永遠への思いに結びつけると「希望」が生まれます。そのために必要なのは「信仰」です。(今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測りしれない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。2コリ4:17~18)

3. 神のなさる業をみきわめることができない人

人の内に与えられている永遠への思いを働かせ、周囲に起っている出来事を判断するとき「時にかなった美しさ」を見出す条件が整います。永遠への思いを神様が与えてくださっているのですから自分の狭いところでもがくような煩わしさから「あなたの栄光の扉がひらくまで！」と目を向けていこうではありませんか。私たちはイエス様の最後の苦しい姿を知っています。もし病になった時に病のことばかり考えるなら、もし銀行の残高ばかりを考えるなら、その時にこそ今に捕らわれないで「やがて」「栄光の先」を見つめて、イエス様の十字架をイメージすることが大事なのです。その時にイエス様があの傷ついた手で私たちの道を指さしているのがわかるのです。
しかし人は、神が行われるみわざを初めから終わりまで見きわめることができない。私たちはつつい下を向いてしまいたくなります。苦しい時に苦しいともがくのは当たり前です。しかしその様な時にこそ信仰によって首を天に向け頭を天に上げるのです。

最後に

神様、弱い私たちを救ってくださって今日ここにいる事はなんと幸いです。私たちの知性では説明できませんが、その永遠への思いを少しでも与えてくださっている事はなんと幸いなことでしょうか。どうか今に縛られることなく過去に縛られることなく未来を不安に思ったとしても上を見上げ私たちの栄光の扉が開かれるまでこの道を一足一足歩ませてください。痛みを持ったとしても人からの傷を受けたとしても喜びの絶頂にいるとしても輝く色でも灰色でも暗闇でも完全な美しさのためには必要な神様の色なのです。今、私たちの生活を振り返ると「なぜですか」とうつぶす事もあるでしょう、ですがそうではなく十字架を見上げ先にある復活を見上げ、さらにその先にある栄光を見上げる時、私たちの信仰を希望に、そして希望を愛にしていこうではありませんか。あなたからの御手を見失わないように、みことばをしっかりと捕えてイエス様に従っていきましょう。
「神のなさる事はすべて時にかなって美しい」

(要約者:西寄真由美)

(2019年8月25日)